

千葉県南房総市における MIM の取り組み

I 南房総市における教育環境・状況

1 南房総市における基礎情報（平成 26 年 5 月 1 日現在，人口を除く）

- (1) 人口 41,108 名
- (2) 学校数 市立小学校 9 校，市立中学校 6 校
- (3) 児童・生徒数 小学校 1,604 名，中学校 843 名
- (4) 通級指導教室および特別支援学級の設置状況

① 小学校

通級指導教室

言語	2 校，	2 教室，	37 名
情緒障害等	1 校，	1 教室，	5 名

特別支援学級

言語	1 校，	1 学級，	5 名
知的障害	9 校，	9 学級，	26 名
自閉・情緒障害	8 校，	8 学級，	20 名

② 中学校

特別支援学級

知的障害	6 校，	6 学級，	13 名
自閉・情緒障害	6 校，	6 学級，	15 名

- (5) 特別支援学校設置状況： なし

2 南房総市における発達障害関連の施策

(1) 文部科学省からの委託事業

「早期からの教育相談・支援体制構築事業」

実施期間：平成 24 年度～26 年度

概要：改正障害者基本法を受け，特別な支援が必要となる可能性のある子ども及びその保護者に対し，早期からの相談活動を実施し，柔軟できめ細やかな対応ができる一貫した支援体制を構築する。

<平成 24 年度>

ア 早期教育支援プロジェクト会議の開催

教育長を委員長とし，「早期教育支援プロジェクト会議」を立ち上げ，本事業の取組の計画や評価を目的とした。また，子どもサポート手帳の作成（次項にて説明），3 歳児健診の間診票改訂と，早期教育支援に必要なソフト面へも対応した。

イ 「南房総市子どもサポート手帳」

～子どもの成長記録としてお使いください～の作成

保護者が管理する「教育支援計画」として，0 歳から就労までの支援に活用でき，相談活動や支援のつながりを意図して作成した。

ウ 就学支援コーディネーターの配置

特別支援教育に専門性のある医療関係者，元言語活動指導者，教育

関係者、保育士、保健師等を「就学支援コーディネーター」として配置し、各施設へ定期的にまた要請を受けて派遣し、支援方法や内容について指導・助言に当たり、早期からの支援体制構築を図った。

<平成25年度>

ア 組織機構の再編

市長部局保健福祉部「子育て支援課」と教育委員会「学校教育課」の再編を経て、教育委員会に「0歳からの子育て・子ども教育全般」を所管する「子ども教育課」を新設した。この大胆な再編により、子育てと教育の一元化が図られ、乳幼児に対して、支援が容易にできる環境が整備され、スムーズでスピード感のある相談対応が実現化した。

イ 教育支援相談員の配置

保護者の願いを受け止め、支援体制をコーディネートする専門家（元小学校長、元県特別支援アドバイザー）として教育支援相談員を配置した。それにより園・学校は、強力な助っ人を得られ、保護者や関係機関との連携が図れた。

ウ 保護者相談の実施

乳幼児健診（1歳6ヶ月健診・3歳児健診）、就学時健診、子育て支援センターでの保健師や保育士、就学支援コーディネーター等による相談、教育支援相談員による相談を実施した。これらにより、相談活動は活発化し、保護者からは「話すことで心が軽くなった」という声が多く聞かれた。そして「ポジティブな子育ての手助け」となった。

エ 専門性の向上

教育支援相談員や就学支援コーディネーターが定期的にまた、要請に応じて園・学校等に訪問することで、適切な支援の継続化、校内支援体制づくりの推進が図れた。また、市独自の研修会では、特別支援教育担当者のみならず、養護教諭、事務職員等も対象とし、それぞれの立場で子どもたちを支えていけるよう目指した。

オ 子どもサポート手帳の周知・活用

平成25年4月より配付を開始する。地方新聞への掲載、市の広報紙、各種行事で周知を図る。配付対象は南房総市在住の保護者および子どもが南房総市内の保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校に通っている保護者（いずれも希望者。配付場所は教育委員会、子育て支援センター、市長部局保健福祉部等。各種相談において、教育支援相談員や就学支援コーディネーターにより配付することで少しずつ広まっている。

以上2年間の取組から見えてきた課題としては以下の4点である。

- ・管理職が積極的だと対応が早いですが、そうでないと対応が後手になる。各学校等の意識の差をどう変えていくか。
- ・相談活動する場は増えたが、適切にコーディネートできているか。
- ・教育支援相談員の心身の負担が心配。高まった保護者の相談ニーズに対応できるよう、増員が必要ではないか。
- ・子どもサポート手帳の定着をどう図っていくか。

<平成26年度>

ア 相談活動のなめらかな接続を図る

平成25年度の再編に続き、課内業務分担を「幼児教育係」「学校教育係」という子どもの学齢期での分担から、「教育係」「支援係」に再編し、子どもを中心とする相談活動の連続性が図られ、園や学校等での保育・教育活動を支える仕組みが整った。相談活動のコーディネートについては、各種会議を活用したり機を捉えたりして、だれが、いつ、どのように行っていくか、打ち合わせる。このコーディネートをスムーズに進めるため、「相談記録簿」を活用した。これにより、保護者の精神的な負担は軽減され、相談を受ける側の連携が強化された。

イ 教育支援相談員の増員

平成26年度より、特別支援学校教諭および中学校教諭の経験のある教育支援相談員を1名増員した。2名により、担当を保育所(園)・幼稚園・小学校低学年と小学校高学年・中学校に分担し、相談に当たった。また、業務内容に不登校対応を加えた。

ウ 保護者相談の継続

2年間の取組の成果を受けて、さらに多様な相談ニーズに対応できるよう、相談員の幅を、教育支援相談員、指導主事、保健師、家庭児童相談員等に広げ対応している。相談件数の中でも、わが子の特徴として気づきやすい「ことばの相談」の件数が急増しており、その後の継続支援につながる場合がある。また、児童生徒と直接つながり、信頼関係を築くことで不登校が解消された事例もある。

エ 専門性の更なる向上

教育支援相談員や専門家チーム巡回相談員による巡回相談を継続している。訪問時には必ず支援会議を行うことで、所(園)内・校内支援体制づくりを推進できている。

25年度の研修内容に加え、できるだけ早く、保護者の障害の受け止めを和らげたり、気づきを促したりすることを意図して、全幼稚園での発達過程を意識した「親子体操」の実施と特別支援教育の視点からの「子育てについての講話」を行った。これらの取組から園・学校等で、管理職を中心として保育士・教職員の自覚や使命感は高まり、保育園・幼稚園からの研修会要請の声が高まった。

オ 子どもサポート手帳の更なる活用

更なる活用に向けて、特別支援教育コーディネーター会議、保育所長・園主任等で趣旨や内容について周知を図った。

<事業終了に当たって>

早期支援をさらに推進していくため、乳幼児・児童生徒に関わる全ての大人の気づきを高め、それが早期支援へつながるような仕組みづくりとその運営の充実に努めていく。

- (2) 県の委託事業：なし
- (3) 市独自の事業：なし

3 南房総市における学力向上関連の施策

- (1) 文部科学省の委託事業：なし
- (2) 県の委託事業：なし
- (3) 市独自の事業

① 学力向上推進事業補助金

実施期間：平成23年度から現在

概要：各学校の特色を生かした学力向上の取り組みを推進する。学校ごとの計画に応じて個別に予算を配当する)

<平成26年度の予算配当例>

- ・学力検査集計・学習状況調査業務委託
- ・学習用新聞
- ・放課後の学習会
- ・習熟プリントや評価テスト・検定テキスト
- ・講師謝金 など

② 到達度調査（南房総市学力検査）の実施と経年分析

実施期間：平成24年度から現在

概要：児童生徒の学力の状況を把握して指導するため、小学校2年生から中学校3年生までの到達度調査（小学生：国・算／中学生：国・数・英）を実施する。今年度は4月15日に実施。結果を分析、児童生徒の変容も調査して指導の改善を図ることが目的である)

③ 夏季講座

実施期間：平成23年度から現在

概要：夏休みの期間に、教育委員会が小中学校に講師学習塾の講師（特に資格等は定めていない）を派遣して学習会を実施する。児童・生徒の実態に合わせ、基礎学力の定着を図る。長期休業期間における学習の習慣を維持するだけでなく、基礎基本の定着や苦手な内容の克服に有効だと考える。また、中学3年生は、部活動が終わり将来の進路に向けてのスタートを切る絶好の機会ととらえている)

④ 放課後学習教室

実施期間：平成24年度から現在

概要：小学校における学力定着のための学習教室を開設する。放課後等に週1コマであるが、3ヶ月の期間で算数等の学習を支援している。講師（特に定めていない）は教育委員会が派遣し、時期や学年等は、学校が主体的に考え企画する。夏季講座や土曜スクール等と関連させることでより効果的な実施を目指している)

⑤ 土曜スクール

実施期間：平成23年度から現在

概要：各学校のPTA等の方々を中心に運営委員会を組織して運営している。スタート当初は、中学3年生を対象とした受験対策の色合いの濃いものであったが、現在は対象学年や開催期間が拡大されつつある)

⑥ 小中連携による学力向上プロジェクト

実施期間：平成 25 年度から現在

概要：各中学校校区を単位に「連絡会」を作り、学力の向上を推進している。連絡会では、児童生徒の学力向上が直接図れるような取組内容を決めて、小中学校が連携して取り組んでいる。

<取組例>

- ・中学校区合同研修（市到達度調査結果の分析、授業力向上講演会など）
- ・小、中の壁を越えた相互授業参観
- ・5, 6 年生で中学校教諭による授業
- ・指導の重点や学習の約束を中学校区共通で実践 など

⑦ 学校図書サポート員配置事業

実施期間：平成 20 年度から現在

概要：各学校において読書教育推進の役割を担う「学校図書サポート員」を小学校週 3 日、中学校に週 2 日配置している。本の整理・管理はもとより、読み聞かせや図書室の環境構成を工夫することで、児童生徒と本を身近にしていく。その他、授業に必要な資料や児童生徒の調べ学習に必要な資料を探して準備してくれている。

⑧ 百字で伝える私の思い <百字作文コンクール>

実施期間：平成 23 年度から現在

概要：朝読書のような日常的活動に定着するよう進めていく。読む人の心を動かす作文に「優秀作文賞」を、応募の多い学校や優秀作品が多い学校に「学校賞」などを贈っている。ここ数年、幼稚園からの応募も見られる。毎年 11 月に行われる「南房総市教育の日」に表彰するなど、市としての取組が定着してきた。

⑨ 教師塾

実施期間：平成 24 年度から現在

概要：先生方の教育内容や指導方法についての悩みに答える。学校規模が小さくなり、一昔前のような「良き相談相手」の存在も少なくなった。同じ悩みを持つ先生方のための相談会、ともに学び合う勉強会、授業力を磨き合う授業研修会などを企画している。

<過去の実施例>

- ・幼稚園の若手教員のための授業研究
- ・千葉県総合教育センターの「出前教師塾」とタイアップした講演会・演習
- ・若手教員の悩み相談会
- ・計画訪問を活用した相互授業参観 など

⑩ 授業力アップ事業

実施期間：平成 25 年度から現在

概要：教師は授業で勝負しなければならないが、日々の教育実践の中で、いつも満足のいく授業ができるとは限らない。時には指導方法で悩んでしまう場合も少なくないと考え、指導方法のアドバイスや資料

の検討などを行っている。

<取組内容>

- ・小中算数・数学，国語担当者研究会
教師の指導方法についてアドバイスをする専門的な講師を招き，教師の授業を見てもらったり，講演や演習を行ったりして教師の授業力アップを図る。
- ・小中英語担当者会議
英語教育を効果的に行うため，小中で共通理解を図り，連携して取り組むことを目的に行う。授業研究や指導方法の協議会等を実施する。
- ・小中英語カリキュラム検討会議
本市では，昨年度英語指導を効果的に実施するために，独自で小学校英語カリキュラム(5・6年の年間指導計画，1～4年での18時間分のLesson plan)を作成した。その内容をさらに良いものにするため，本年度は，5・6年のカリキュラムと「Hi Friends」のリンクを図り，また，1～4年での18時間分のLesson plan日本語バージョンを作成した。その活用を図るため，planをもとに授業検討会を実施し，指導力の向上を図っている。

4 発達障害のある子ども等への支援のリソース

(1) 支援員や巡回相談等の人的支援

① 特別支援教育支援員の配置

幼稚園，各学校の要望に沿って，発達障害の園児児童生徒の学習支援を行う「学習支援員」，肢体不自由等の障害のある園児児童生徒への支援を行う「介助員」を配置している（学習支援員，介助員について特に資格規定はないが，ほとんどは小中幼のいずれかの教員免許状を有している。また，雇用は校長等の推薦により，教育長が決定する）。人数は予算配当によるが，幼稚園では，最大で，一日5時間，年間で1,000時間，小中では，一日6時間，年間で1,200時間の支援を行っている。

② 巡回相談の実施

特別支援教育の専門性や経験のある教育支援相談員（市非常勤職員）2名，市専門家チーム巡回相談員，市就学支援コーディネーター（教育，医療，福祉の分野から特別支援教育に関する専門性や経験のある方）が，定期的にまた，要請を受けて各幼稚園，各小中学校を訪問し，適切な支援の継続化を図ったり，保護者や各関係機関等との連携への協力を行ったりと，校内支援体制づくりを推進している。

③ スクールカウンセラーの活用

県より各中学校区に1名派遣されているスクールカウンセラーを中学校長の許可を得て，小学校のニーズへ対応できるよう派遣している。

(2) 教材等の提供といった物的支援

特記事項なし

(3) 公的な相談・指導機関

南房総市役所教育委員会子ども教育課内「支援係」および「子育て支援センター」、保健福祉部の「社会福祉課」、「健康支援課」にて、子育て全般についての相談を受け付けている。他には、「安房地域生活支援センター」「中核地域生活支援センター（千葉県）」「子ども家庭支援センター」等への相談につなげている。

(4) その他

① 子どもサポート手帳」の活用

市では、独自にサポートファイル「南房総市子どもサポート手帳」を作成している。子どもサポート手帳は、0歳から成人まで使うことができ、子育ての過程で、気になったこと、困ったこと等を記録し、乳幼児健診時や就学時に各関係機関とつながるためのツールとなる。保護者が管理する教育支援計画に当たる。

② 要保護児童対策地域協議会との連携

南房総市役所教育委員会子ども教育課内支援係内には、「要保護児童対策地域協議会」の事務局が置かれており、早期に連携を図ることで、特別な支援を必要とする子どもの虐待につながるような二次障害、三次障害の回避に努めている。

II 自治体における MIM の取り組み

1 MIM に取り組むことになった経緯

- (1) 本市は、平成 24 年度から 26 年度までの 3 年間、文科省から「早期からの教育相談・支援体制構築事業」の委託を受け、研究に取り組んできた。発達障害が考えられる子どもの指導や読みの流暢性を育てる指導として「多層指導モデル MIM」があることを知り、「早期からの読み学習支援」として、平成 26 年度から取り組み始めた。
- (2) 一方、小中学校において基礎的な学力にかなりな差が見られる。また、学級の中でも学力の差が多様である。様々な要因が考えられるが、学力の面からも、市教委の学力向上を図る教育施策の一つとして位置づけ、小学校 1 学年から読みの力をしっかり育てること、学び方や学力差に応じた指導の工夫が必要であると考えた。
- (3) 市で MIM のアセスメント・指導パッケージを 3 セット購入し、まずは貸し出しを行っている。

2 MIM に関する実施計画

- (1) 平成 26 年度：「早期からの読み学習支援 MIM」研修会の実施
 - ① MIM 実践経験がある教員による師範授業及び教材製作の指導
講師：南房総市立丸小学校教頭 真木 泉先生
対象者：低学年学級担任、特別支援学級担任、通級指導教室担当者、管理職
 - ② MIM の基本的な理解に関する研修の実施
講師：国立特別支援教育総合研究所 海津亜希子先生
対象者：低学年学級担任、特別支援学級担任、通級指導教室担当者、管理職
- (2) 平成 27 年度：モデル校 1 校を指定し、実践に取り組む
- (3) 平成 28 年度：市内 9 小学校の全校で MIM を実践する

3 MIMに関する事業における行政（教育委員会等）の具体的役割

- (1) MIM の実践を紹介するとともに、具体的な指導法を学ぶため、市内教諭（管理職を含む）を対象とした研修会を実施する。
- (2) MIM 研修会を活用し、モデル校の実践内容を紹介することで、未実施校における実践に向けた啓発をする。
- (3) MIM の実践を通して、「子どもがわかる・できる・力がつく」ための教材の工夫・製作を図る。先進校の教材を紹介する。
- (4) MIM アセスメント・指導パッケージの活用に向け、貸し出しと購入支援をする。
- (5) 市内小学校に在籍する子どもたちの基礎・基本の学力定着を図る実践（教育施策）として位置づけ、授業観察やアセスメントの実施と精査を行い、年度末に標準化された読みなどのテストを実施して、効果検証を行い、実践の成果と課題を明らかにする。
- (6) 市内9校について指導主事が学校訪問しながら、MIM の授業参観をする。

4 MIMに関する研修

<平成26年度>

- ① MIM 実践経験がある教員による師範授業及び教材製作の指導。
講 師：南房総市立丸小学校教頭 真木 泉先生
対象者：低学年学級担任，特別支援学級担任，通級指導教室担当者，管理職
- ② MIM の基本的な理解に関する研修の実施。夏季休業中に実施。内容は「早期からの読み学習支援 MIM について」参加者は市内外で約 50 名。
講 師：国立特別支援教育総合研究所 海津亜希子先生
(午後からは、MIM 実践経験がある教員による師範授業及び教材製作の指導)
講 師：南房総市立丸小学校教頭 真木 泉先生
対象者：低学年学級担任，特別支援学級担任，通級指導教室担当者，管理職
- ③ ②の研修に対する参加者の声
【午前の部について】
 - ・通常の学級で MIM が必要な事がわかった。早い段階でやっていきたいと思う。特殊音節がつまずきになる事が分かったので気にしながら学習を進めていきたいと思った。
 - ・真木先生の授業をみたり，校内研修でお話して頂いてから，海津先生のお話を聞きとても良かった。MIM がスタートした時の事からわかった。考え方から具体的な方法まで知ることができ，本当に良かった。
 - ・変容が数値化されているのを見て，効果があることが納得できた。読みでつまずくと，全てに繋がると言うお話が印象的だった。全校で積み重ねて行けば学力がつくだろうなと思った。
 - ・わかりやすい講演で大変良かった。
 - ・具体的な指導の仕方が分かり，2 学期以降の授業にすぐに取り入れようと思った。
 - ・校長なので直接指導する事はできないが，1 年生の指導計画の中に組み込みながら実践していこうと考えている。アセスメントは行ったが，そこからどの様に計画の中に入れようかと考えた。
 - ・海津先生のお話を直接お聴きすることができ，開発までの思いや理念を知り，と

- でも共感できた。どの子も「わかりたい」と言う思いを持っている、その子がつまづきを自覚する前に教師が気づき、支援をすること、その支援は全ての子のヒントになることなど学ぶ事がたくさんあった。
- ・校内に広められる様に頑張りたいと思う。
 - ・MIM について、詳しく知ることができて良かった。言葉を視覚化、動作化することによって、子どもたちに捉え易いことが分かった。
 - ・MIM の理念が良く分かった。効果も目に見えて分かりやすい（なにより、子どもにとって出来て嬉しい）。
 - ・MIM についての指導法や効果など初めて知ることも多く、簡単で大きな効果が得られることも分かった。2学期に入ったら、アセスメント（テスト）を実施して、子どもたちの実態を知ることや自分の指導法を見直したい。
 - ・MIM について初めて知った。早期に取り組むことによって子どもたちが自信を失わず学校生活を楽しく送ってもらえる為にととても大切なことだと思った。読むということは、生活にとっても基本的で重要なので少しでも既に自信を失くしている子どもたちに役立てたいと思う。
 - ・通常の学級における MIM の指導ということでお話を伺い、勉強になった。まず、つまづく前に支援していくことが大切である。また、学びを楽しみながら自信を得るような指導をして行くことが大切であると改めて感じた。
 - ・MIM の指導には、とても効果があり、LD の子どもたちもずいぶん学ぶことが楽しくなるだろうということがわかった。ただ、やるだけでなく、アセスメントも兼ねて月1回行うことが更に定着させるのだろうと思った。良いお話でしかもわかりやすかった。
 - ・学びによって子どもたちに充実感を持たせるように工夫していきたいと思った。
 - ・こういった指導法は子どもの時にも受けた事は無いし、教育に携わるようになってからも恥ずかしながら無かった。理解力が劣るから本を読めではなくて、この MIM により各自のつまづきを把握し、各ステージ別にトレーニングしていくことは、とても重要と感じた。1分間で行う「めざせよみめいじん」では、私も成績があまり芳しくなくて困ってしまった。学習という枠の窓から見た特別支援教育について理解することができた。
 - ・「MIM」について、学校として実践していきたいと思う。「困った」と思うだけでなく、そういう児童にできるだけ早めに支援していきたいと思った。
 - ・小学校の先生に紹介され参加させて頂いた。中学でも読み・書きにつまずいている生徒もおり、何か学べるものかという思いで参加した。指導方法はもちろんのこと、教員として子どもに向き合う姿勢というものも学ばせて頂いた様に思う。
 - ・先生の資料、本等でこれから勉強させて頂こうと思う。
 - ・素晴らしいカリキュラムだと感じた。市の教育が益々推進することを願っている。
 - ・1つの分野とはいえ、小学校の低学年で学び中学生になってもあやしい生徒がいることも事実である。特別支援学級の生徒を含め、2学期から実践したいと考えた。語彙を増やすことも含め、考えさせられた。
 - ・MIM の指導法について、直前に少し理解していたので、分かり易かった。小学校での指導内容や小学校で必要とされる力を知ることができた。具体的な内容を

聞いている中で、幼稚園ではどんなことができるのかイメージしていた。これから、どのように遊びに取り入れていけるのか考えていきたい。

- ・分かり易かった。通常学級だけでなく、特別支援学級の高学年の児童にも活用したい。
- ・第1回目に参加した先生の報告を聞いて、校長も知るべきだと思った。私自身の興味も大きかった。学校でも職員全員で勉強し、ぜひ実践したいと思う（諦めてはならないと、いつも思っている）。
- ・MIM の考え方、なぜこの指導が大切なのか、この指導方法が生まれた背景が大変良く分かった。低学年を受け持っていて、まさに特殊音節の指導の難しさ、語をまとまって読めない子への指導に悩んでいた。具体的な順序だてた指導方法でさっそく実践してみたいと感じた。
- ・とても参考になった。子どもたちのつまずきがわかり、アセスメントの方法等分かり易くて良かった。実践がすぐできそうで有効だなと思った。未然につまずきをなくせれば本当に良いと思う。
- ・盛りだくさんの内容を分かり易くして頂き良く分かった。子どもに「っ」や「伸ばす音」の動作を教えたら楽しんでた。でも良くできない子もたくさんいる。良くできた教材だと思った。
- ・MIM の考え方を教えて頂き、やらされてやるのではなく、よし！やってみようという思いになった。
- ・多層指導の良さが良く分かった。とても分かり易く、しかもやってみようかと思える内容で良かった。
- ・以前に別の研修でいつかやってみたいと思い、購入したまま宝の持ち腐れに（シートのみ使用していた）になっていた。ぜひ活用したい。「見逃さない」というスタンスがいい。

【午後の部について】

- ・午前の部を更に具体的に実践的な事を話してやって頂けたのでありがたかった。
- ・MIM の実践や教材づくりを通して、子どもたちにどの様に進めていくか考えることができた。
- ・具体的な授業の流れが分かった。子どもたちと工夫しながら実践したいと思う。
- ・真木先生のお話で具体的な授業のイメージができた。低学年でぜひ取り入れたい。
- ・分かり易かった。自分がやる時のお手本になった。教材作りも楽しかった。
- ・1回目の研修に引き続き、大変分かり易く、取り組む意欲がアップした。今回は教材作りができ、2学期早速活用してみたい。
- ・午前の部を具体的に話して下さり、良く分かった。また、実際に使える資料作りも良かった。
- ・指導の手順が分かり易く、すぐに活用出来る。掲示用・練習用のコピー作りを協力してやりたい。
- ・授業での取り組み方や具体的な指導方法も聞くことができたので、とても分かり易かった。実際に授業でも取り入れて行こうと思う。
- ・午前のお話を具体的に教えて下さったので分かり易かった。ちょっとした会話やゲームでも活用できたらと思う。

- ・ MIM の使い方について実技をともないながら説明していたので、MIM を使った指導方法が分かり良かった。教材作りも良かった。9/1 からすぐに使いたい。
- ・ 教材をプリントして、パウチしてすぐできるようにしてあれば取り組みやすいと思った。量が多いので少し時間が掛るかなと思うが、貴重な時間になった。
- ・ 実際に真木先生が黒板を使ってやって下さったので、自分でやってみたいことがイメージしやすかった。教材作りも持てて良かった。
- ・ 具体的に説明して頂き分かり易かった。今学校に無いので欲しいと思った。実践していらっしゃる先生のやり方が知れて分かり易かった。
- ・ 具体的な指導の仕方を考えて頂き2学期も引き続き実施していきたいと切に思った。また、楽しく行えそうな指導も教えて頂いた。
- ・ 授業の進め方について見通しがもてた。1年生、1学期ではまだまだ促音、拗音の読みや表記ができていないので再度取り組もうと思う。
- ・ MIM は教材が全てなので早期に各学校に設置・購入して欲しい。利用の実際がよく分かった。

【全体的に（研修会の運営等も含めて）】

- ・ ぜひ、やってみたくなった。とにかく挑戦。2年生の子どもたち、少しでもレベルが上がることを願って。
- ・ 案内の中で参加対象に「支援員」も書いて下さっていたので、ためらわず参加することができてとてもありがたかった。
- ・ 学校でも MIM が話題になっている。今日勉強させて頂きありがたかった。
- ・ とても良かった。参加して良かった。また2学期から考え、取り組みたい。
- ・ 夏休みに教材作りが出来たことはとても良かったが1学期にできるとより早く取り組めると思った。
- ・ MIM の研修が夏の始めにあると、教材が作れたかなと思った。
- ・ MIM について初めて知ることができたので良かった。2学期にすぐに実践できる取り組み方や指導法、教材作りをすることができたのがとても良かった。
- ・ 早期発見・早期対応（支援）が重要と認識している。
- ・ 丸小での授業研の案内や研修会の案内を幼稚園にも欲しかった（早めに）。
- ・ 学校全体（南房総市）で取り組んで教材作り等も行えると良いと思う。各学校1セットずつ購入して欲しい！職員研修等にするのでもっと早く（時期）やって欲しい。教材作りの時間の確保も！たくさんの先生方に知って欲しい。
- ・ 良い内容だった。各学校に資料が欲しいと思った。夏休み中に先生方にできるだけ早めに支援していきたいと思った。伝えなかったのもっと早い時期（夏休みの早いうち）がいいと思う。
- ・ MIM の教材が手元に無いと不便かなと思う。ぜひとも各校に1つずつ教材を用意して欲しい。

5 MIM に関する事業についての現時点での成果

(1) MIM について知る

一番の成果は、「読むことは人生を豊かにする」「分かる楽しさを伝えたい」「つまずかせるわけにはいかない」という海津先生の熱意あふれる講演を聴き、参加した多くの教諭が「目の前にいる子どもをなんとかしたい」という思いをもつことができたことである。

(2) 学校独自の取組が始まる

研修会后、市教委主導でなく、9校中5校の学校で独自に「MIM」に取り組み始めた。実施形態としては、「児童の実態に応じて国語の学習で」「朝自習の時間に」等手軽に取り組める内容がほとんどである。その様子について報告してもらったのが、以下の通りである。

① 児童の様子

- ・促音や長音を身体で表現するのは、どの子にとっても楽しみながらできる活動で、さらに読み方、書き方のルールが理解がし易かった。
- ・児童たち自身で動きを考えるなど、発展的に楽しく取り組めた。
- ・ことば遊び（ゲーム）のような感覚でカードを使った学習に楽しく取り組んでいる。
- ・宿題にも活用し、語彙が広がっている。
- ・特別支援学級児童や上学年児童の実態把握に役立った。

② 指導者の感想

- ・指導の手順が丁寧に示されていて児童にもわかりやすい。
- ・学習内容に合わせて、一斉・グループ・個の学習形態が組み、授業が単調にならず、児童が意欲的に取り組めた。
- ・TTで授業をすることで、テンポよく進められた。また、モデルを示すことで、児童の理解も図れた。

(3) 次年度の見通し・課題を持つことができた

- ・確実な定着を図ろうとすれば、継続的な指導が必要だが、指導計画の中に帯で取り入れていくのは難しい。準備や評価にも時間がかかる。具体的な課題が見えてきた。
- ・教材の準備、3rdステージの児童への個別指導の時間確保等が課題である。
- ・低学年（特に1年生）の授業に位置づけるだけでなく、特別支援学級の児童にも必要に応じて指導する。
- ・次年度への見通しについては、「指導計画に位置づけて」と積極的な意見も聞かれた。また、すでに MIM パッケージを購入している学校や来年度の予算で要望している学校もある。
- ・市教委への要望として、全校へのパッケージ配付や研修会の実施が挙げられている。

6 MIM に関する事業についての現時点での課題

- (1) 本年度は前述の文科省委託事業「早期からの教育相談・支援体制構築事業」の関係で、特別支援教育担当指導主事で研修を進めてきたが、今後、実践となると、実態調査、取組、アセスメント等、学力向上の視点で MIM の実践をいかに行っていくか検討することが必要であると考え。教育委員会内での方針の決定が急務である。
- (2) 校長、教頭の MIM の研修会参加を要請し、MIM を校内で支える体制の強化を図

っていく必要がある。

- (3) MIM の教材 (CD-ROM) の準備, 予算化。

7 MIM の事業を進めるにあたって期待すること

- (1) MIM の指導が広がることで, 教諭による児童の特性の把握が的確になり, 授業の質が高まること。
- (2) MIM の実践の工夫 (教材の活用) が進み, 児童の読みの力が確かなものになって欲しい。それをもとにして基礎・基本の学力の定着につながってほしい。
- (3) 初任者が, MIM による指導法を身に付けて, わかりやすく確かな指導ができるためのツールとなってほしい。

8 MIM への要望

次年度以降も各校より研修会実施要請の声が挙がっている。今後とも本市へのご指導, ご支援をいただきたい。

9 今後 MIM に関する事業を進めようとしている自治体へのアドバイス・メッセージ

この指導法が, ある一定の特別なニーズのある児童だけのためでなく, ユニバーサルデザインの視点をもって, 多くの教諭が身に付けて行ってほしい。それには, この指導法との最初の出会いが大切である。より多くの教諭が学べるような研修のスタイル (市内教職員の一斉研修等) が望ましいと思われる。

(文責: 南房総市教育委員会子ども教育課・主任指導主事 森田 典子)